島根県水産技術センター　漁況情報　平成 22 年 5 月 26 日発行

トビウオ通信　（H22　第４号）

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/　　(TEL 0855-22-1720)

《平成 22 年度第１回日本海スルメイカ漁況予報》

平成 22 年 4 月 30 日に水産庁（独立行政法人 水産総合研究センター日本海区水産研究所取りまとめ）より第１回日本海スルメイカ長期漁況予報が発表されました。今回はその内容を基に、島根県沖のスルメイカの今後の漁模様の検討をします。

今　後　の　見　通　し　（　予報期間 5～7 月　）

日本海全域（水産庁発表）

（1）　来遊量：昨年及び近年平均を下回る

（2）　漁期・漁場：昨年及び近年平均よりも遅い。

（3）　魚体の大きさ：昨年及び近年平均よりも小さい。

島根県沖

来遊量は少なく、漁況は低調に推移する。

※ 近年：過去５年間（H17～H21 年）

日本海におけるスルメイカ資源の動向

昨年秋のスルメイカ幼生の分布量の調査結果

日本海では５月下旬～１０月に前年の秋～冬に生まれたスルメイカが主に漁獲されます。したがって、前年秋～冬のスルメイカ幼生の分布量は日本海へのスルメイカの来遊量を予測する

図1　スルメイカの孵化幼生
（外套背長約1mm）

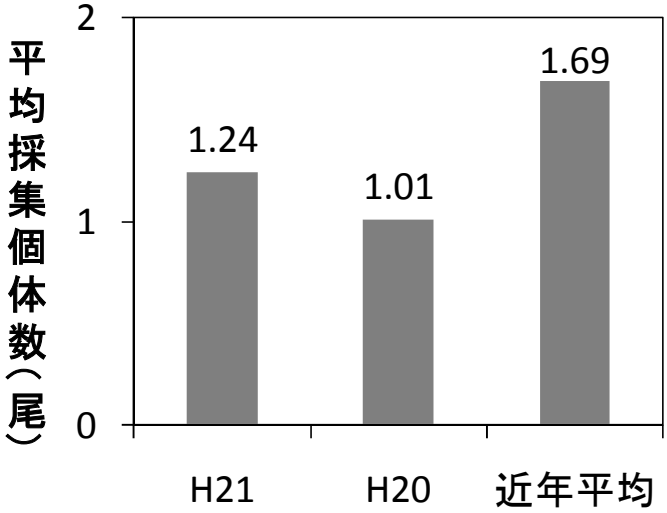

図２　日本海西部～九州西岸海域でのプランクトンネットによる１調査点あたりのスルメイカ幼生の平均採集個体数（近年平均は H17-21 年の平均値）　※日本海区水産研究所提供

資料となります。昨年の秋に日本海西部から九州西岸海域において日本海区水産研究所および各県の関係機関によりスルメイカの幼生（図 1）の分布量調査が実施されました。その平均採集個体数（1.24 尾）は前年（1.01 個体）は上回り、近年平均（1.69 個体）を下回りました（図 2)。このことから日本海西部における昨年の秋のスルメイカの発生量は、前年は上回るが、近年より低い水準と考えられます。

4 月における加入前のイカの分布量の調査結果

イカ釣り漁業では体長(外套背長)が約 15 ㎝以上の大きさのスルメイカが漁獲対象となります。したがって、漁獲対象となる前の大きさのスルメイカ（主に外套背長 2 ㎝～10 ㎝）の分布量は漁期前に漁況を予測する資料となります。今年も 4 月に日本海沖合海域において、表層トロール網を用いた漁獲加入前のスルメイカの分布量調査が日本海区水産研究所や関係各県により実施されました。その結果、採集されたスルメイカの 1 調査点あたりの平均採集個体数は 18.6 個体となり、近年平均（42.9 個体）・前年（81.3 個体）を下回りました（図 3)。

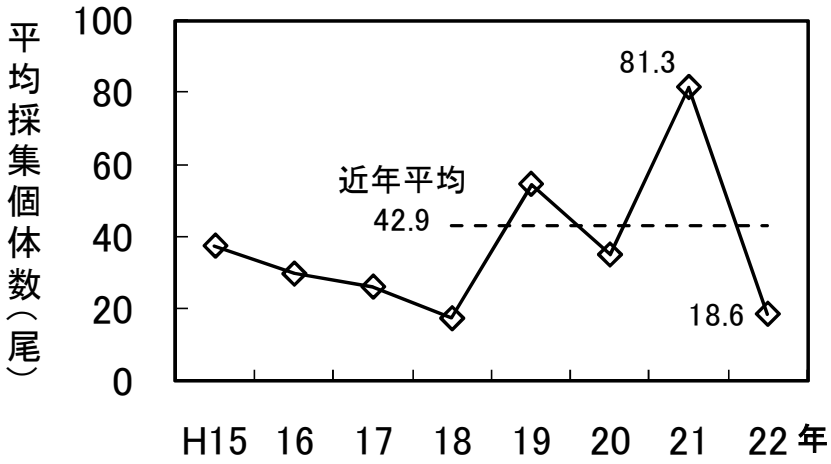

図 3.　日本海の沖合において表層トロール網により採集された漁獲加入前のスルメイカの平均採集数の推移（実施時期：4 月）　※日本海区水産研究所提供

また、今年採集された個体には予報期間に漁獲加入する体長 5 ㎝以上の個体の割合が少なく、その採集個体数（2.0 尾）は近年平均（16.7 尾）・前年（17.7 尾）を大きく下回りました。この結果と幼生の分布量などから、日本海全域における今期のスルメイカの来遊量は近年平均を下回ると考えられます。

今後の島根県沖での漁況

スルメイカは低調

主要３港（浜田、恵曇、西郷）における小型イカ釣（5 トン以上 30 トン未満）によるスルメイ

カの月別の水揚動向を図4に示しました。平成22年の4月までの水揚量は243トンで、近年比で20%、不漁であった前年並み（前年比105%）となりました。

日本海全域における今後（5月～7月）のスルメイカの来遊量は近年平均を下回ると予測されており、島根県沖での今期のスルメイカ漁況はあまり期待できないと言えそうです。

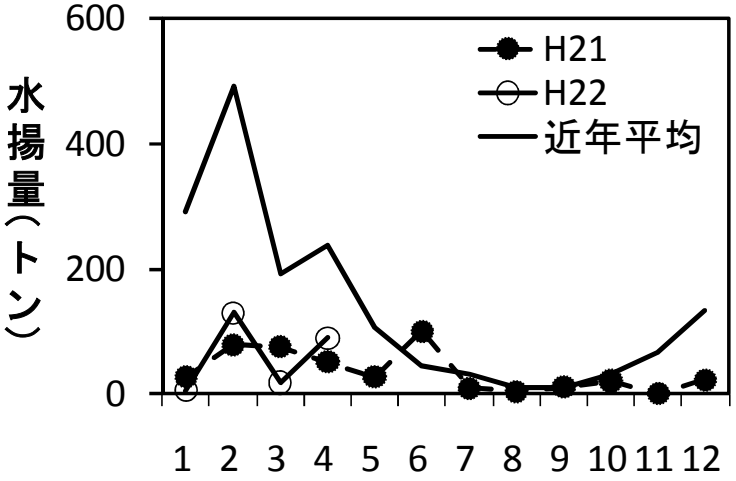

図４．主要３港（浜田、恵曇、西郷）におけるスルメイカの水揚動向